

# 注目! 高校生の環境保全活動

特集

## 高校生大いに語る

### 「第1回高校生環境座談会」を開催

現在、高校生による自主的な環境保全活動が全国各地で展開されています。こうした中、環境再生保全機構は地球環境基金に全国ユース環境ネットワーク事務局を設置し、全国の高校生やユースの環境活動を応援しています。本号では、自主活動を続ける現役高校生6名に集まっていただき、環境にかける思いを語っていただきました。

**座談会参加高校** (神奈川県横浜市) 法政大学女子高等学校 エコ・アクション・プロジェクトチーム  
(茨城県つくば市) 茨城県立竹園高等学校 JRC部 (Junior Red Cross青少年赤十字)  
(宮城県名取市) 宮城県農業高等学校 科学部「復興プロジェクトチーム」

**座談会主催** 地球環境基金 全国ユース環境ネットワーク事務局

最初に、それぞれの学校と普段の活動内容を紹介してください。

**永野** 法政大学女子高等学校 (以下、法女)は横浜にある私立高校です。名誉校長であった野上弥生子先生の「女性である前にまず人間であれ」という教えの下、生徒は自由に伸び伸びと生活しています。ハロウィーンの日には、お化けやキャラクターに仮装した生徒が普通に授業を受けている、そんなとても面白い学校です。

**若尾** 私たちエコ・アクション・プロジェクトチームは「持続可能な環

境と社会の実現」を目指す有志生徒の集まりです。活動し始めて3年目、約40名で環境問題に取り組みんでいます。これまでに利用駅周辺の清掃活動、学内の節水節電、学食から出た廃油をせっけんに精製・配布する運動などを行ってきました。

**内澤** 茨城県立竹園高等学校 (以下、竹高)は、筑波研究学園都市初の公立高校として1979年に開校し、今年で創立38年目を迎えました。普通科と国際科の2学科があり、進路希望の実現はもち

ろん、「国際社会をリードする人材の育成」を教育目標に掲げています。僕たちは毎日楽しく、バリバリ勉学に励んでいます。

**秋葉** 団体名のJRCは、Junior Red Cross(青少年赤十字)の略で、簡単にいうとボランティア部です。17名で活動していて、主に災害被災地への義援金の募金活動や、ペットボトルキャップ・古紙回収、献血の呼び掛けなどを行っています。昨年の常総市の洪水被害の際は、校内で絵本を集め被災した子どもたちに500冊を寄付

それから、毎年古紙回収で得た収益でつくば市に車椅子を寄贈しています。それが8台目となりました。

**渡邊** 宮城県農業高等学校(以下、宮農)は、1885年名取市に開校した日本最古の農業高校で、農業科、園芸科、生活科、食品科学科、農業機械科があります。校舎は東日本大震災の津波で流されたため、現在は宮城県農業大学の敷地内にある仮設校舎で学んでいます。

**佐藤** 科学部の部員は12名で、復興プロジェクトチームとして沿岸部にサクラとバラを植え、緑を取り戻す活動を行っています。バラは中国の東北地方・貴州省から県内に伝わった刺梨(ツリー)という品種を育て、その果実を利用したお茶を商品化したり、ジャムなどを作っています。

日々の活動を通して環境について、どんなふうに考えていますか?

**若尾** 高校は京浜工業地帯にあり、大気汚染や排水汚染などはこの30年で随分改善されましたが、まだ不十分。人間がモノの豊かさ追求した結果、新たに生態系破壊や地球温暖化といった問題が起きています。



座談会参加者

左から  
茨城県立竹園高等学校の秋葉俊祐さん(3年)、内澤謙昇さん(3年)、  
宮城県農業高等学校の佐藤亜記さん(2年)、渡邊翼さん(2年)、  
法政大学女子高等学校の若尾咲輝さん(3年)、永野日奈子さん(2年)

**内澤** そう、確かにあらゆる面で便利になったけど、日本だけでなく地球環境全体が急速に悪化している。

**永野** 人間は便利なモノを開発し、中には革命的なものもありますが、その便利さに甘え、どんどん欲が出てきてしまった。その結果が温暖化なので、元に戻すのは人間の役目だと思います。

も大事じゃないかな。

**渡邊** 地元のことでいえば、やはり東日本大震災で岩手や宮城の自然全体が大きく変わったと思う。沿岸部では草木をすみかにしてきた昆虫が消え、内陸部でも山を崩して土砂を採取するので緑がなくなり、野生動物に影響が出ています。

手助けしなくてはと思います。

皆さんがほぼ50歳になる2050年に向けてはどうですか?

**佐藤** 私たちは今、サクラの植樹を進めています。この活動が広がっていけば、34年後の東北はもつと緑にあふれていると思います。

**渡邊** 僕も、東日本大震災で失った緑を取り戻すことが一番大事だと思います。

**秋葉** 便利な生活を求めて機械化が進み、どんどん電気を使う。その意味を深く考えることは大事だけど、誰でもすぐできる節電・節水

**佐藤** 良質な土壌を10cm作るのに千年、1cm作るだけでも百年かかるというわれています。東北の自然を回復するには、農業や微生物の力を借りるなどして、私たち人間が

**永野** 一人の力は知れているけれど、今やっている活動や問題意識をみんなに広げていくことが大切



茨城県立竹園高等学校先輩が企画制作した「環境かるた」。つくば市内の小学校で教材として使われている



宮城県農業高等学校バラの一種「刺梨(ツリー)」を育て、それを果実茶として商品化。おいしい!



法政大学女子高等学校学食から出た廃油を精製し製作したせっけん。校内などに配布した

# 第1回 全国ユース環境活動発表大会



2月13日、14日の2日間、東京の国連大学で第1回全国ユース環境活動発表大会が開催されました。全国から131件の応募があり、審査を経て代表20高校が出場しました。1日目は「ESD学びあいフォーラム」、2日目には「発表大会」が行われ、表彰式には丸川珠代環境大臣も出席されました。

- 主催** 全国ユース環境活動発表大会 実行委員会 (環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所)
- 協力** 認定NPO法人 JUON NETWORK、NPO法人エコ・リーグ、全国大学生環境活動コンテスト実行委員会、WWFジャパン
- 協賛** キリン株式会社、協栄産業株式会社

## 三保松原の環境づくりを目的とした循環型松原共生プロジェクト



2013年に世界文化遺産に登録された三保松原では、5万本あった松が3万5千本までに減少。その原因は観光バスなどによる環境汚染、放置松葉による土壌の富栄養化にあることに着目。観光客には松原から遠く離れた駐車場の利用を呼び掛け、放置松葉については入浴剤の素材として活用するなど、地域と連携して活動を展開している。

## 環境大臣賞

静岡県立静岡農業高等学校  
松葉研究班



## 水車プロジェクト マイクロ水力発電で用水路を活かし里山環境を守る



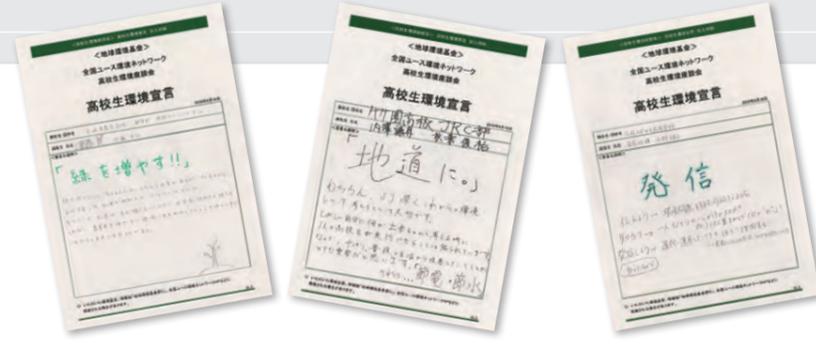
水資源の中でも特に灌漑用水路に着目し、マイクロ水力発電でエネルギーの地産地消を目指した活動。注目すべきは、地域の農業生産団体、自治会などと連携し「水車学習会」「水車作りワークショップ」を継続的に開催していること。2012年度からスタートした本プロジェクトにより、近畿一円の18地域で約50基の水車が稼働している。

## 環境再生保全機構 理事長賞

京都市立伏見工業高等学校  
マイクロ水力発電グループ



# 注目! 高校生の環境保全活動



宮城県農業高等学校 茨城県立竹園高等学校 法政大学女子高等学校



座談会の休憩時間に刺梨の果実茶を試飲(宮農)

**若尾** 私は、仕組みづくりが必要だと思っています。例えば、レジ袋。エコバッグを持つ人もいますが、今でも当たり前のように使われたり、2円ですべて売っています。それはレジ袋がまだあるからで、なければ買わないし使わない。極端な話ですが、環境に悪いモノをなくすのも大切だと思います。あとは、レジ袋や紙袋を使わなければポイントが付くとか、割引になるとか。そうすれば、自然と環境に配慮した行動ができるのでは？

**佐藤** それ、いいと思います。企業が気付かないと実現できないから、私たち高校生がその考え方を広めるために動かないといけない。

**内澤** 今、すごく感動した！レジ袋をくれないと、その店で買い物をしなくなるかと思っただけで、環境を第に考えるなら、売らない、渡さない。そういう仕組みを作れば、周りを巻き込むことができるので、これはスゲーって思いました。

**秋葉** 個人的なことになりますが、ソーラー発電に興味があります。工学系の大学に進んで、屋根に液体を塗るだけで発電できるとか、そんな新しいタイプのソーラー発電を開発して持続可能な社会のために貢献できたらと考えています。

**若尾** 私たちの考えた宣言は「発信」です。より多くの人に環境問題について知ってもらうことが大切で、知るからこそ行動に移せると思っています。まず、環境問題や持続可能な社会について伝える。それを聞いて理解した一人一人が環境を心掛けたら行動を起こす。10人集まれば、10の力にもなるわけです。そして次は、知った人が発信すること。発信手段にはSNSやインスタグラムなどのITを使います。持続可能な社会を実現するには、伝える知る発信するという3つのサイクルを回すのが良い方法なのではないかと考えました。

**内澤** 対照的だな。竹高は「地

道に」という宣言にしました。個々の力でできることって本当に少ないと思うんですよ。学校全体だったら千人近くいるのですが、やっぱりやるのは自分たちで、急には変わらない。環境問題が大きく解決されることに越したことはないけれど、僕は一つ一つ積み重ねていかないと解決できないと思っています。個人ができる節電、節水、ゴミを捨てること、リサイクルなどが重要ではないかと思いました。

**渡邊** 僕たちは「緑を増やす!!」。はつきり言って、被災地に緑がないというところは、地元にはないと思わないかと思うんです。そんな現状を多くの人に知ってもらいたいし、緑を増やす技術を広めたい。宮城の沿岸部では、(塩害などで)植物を普通に植えただけでは枯れてしまうので、栽培技術を持つ人、農業者を増やすことが大事。それが緑を増やすことにつながっていくと思います。

**若尾** メディアの仕事に就くことです。環境問題を学んだからこそ、伝えられることがあると思えます。自分が学んだことをしっかり後世に、そして今を一緒に生きる世

では最後に、皆さんの夢を聞かせてください。

**若尾** 夢は中学生のときから決まっています。家業の畜産を継ぎます。ただ農業をやるのではなく、自然環境に配慮した農業とか、畜産ふん尿のリサイクルなども自分の代でできたらと思っています。

**渡邊** 将来の夢は中学生のときから決まっています。家業の畜産を継ぎます。ただ農業をやるのではなく、自然環境に配慮した農業とか、畜産ふん尿のリサイクルなども自分の代でできたらと思っています。

**若尾** 夢に向かって頑張ってください。期待しています!

代の人にも伝えていきたい。

**永野** 世界で活躍できる人材になること。やっぱりどこかで環境に関わる、例えば動物を保護する団体に関わっていくとか、環境に貢献できたらいいなと思っています。

**内澤** 車の排気ガスに含まれる有害成分を浄化する触媒技術は日本が世界のトップクラスなので、工学系に進んで学び、中国やインドなど大気汚染を抱える国々にも技術提供できたらと思っています。

**秋葉** 将来はプログラミングや設計の分野で仕事をしたい。先ほど話したように、今までにないタイプのソーラーパネルなども作ってみたいですね。

**佐藤** 漠然とですが、本に関わる仕事か公務員になりたいと思っています。公務員であれば地域の環境に関われるし、本の仕事なら環境の大切さを本を通して伝えられるからです。

**小澤紀美子審査委員長講評**  
(東京学芸大学名誉教授)

活動報告を聞き、日本の高校生の素晴らしさを再認識しました。以前、文科省で環境教育に取り組んだことがありますが、今こうして花開いている。審査委員長としてお礼を申し上げます。

全国ユース環境活動発表大会 協賛企業  
私たちは全国のユースの環境活動を応援しています。

**KIRIN** **KYQEI**  
キリン株式会社 協栄産業株式会社